

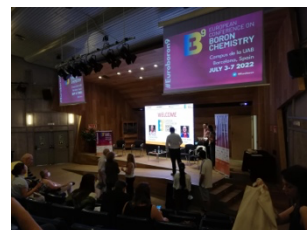
EUROBORON9 への参加報告

工学研究科有機・高分子化学専攻
博士後期課程1年 山梨遼太郎

出張先：Barcelona, Spain

出張期間：7/3-7/7

出張目的：EUROBORON9 への参加およびポスター発表



概要：バルセロナ自治大学で開催されたEUROBORON9 に参加し、ホウ素-酸素二重結合種の合成と反応性について、“A base stabilized neutral B=O species supported by a bis(oxazoliny)l)methanide ligand”というタイトルでポスター発表を行った。本学会ではホウ素含有化学種の構造や反応性を中心とした議論が行われた。特に自分の発表では標的化合物の反応性について、反応化学を専門とする教授や学生と意見交換を行い、研究の今後の方向性について新たなアイデアを創出することができた。

所感等：イギリス留学中での国際学会参加となったため、英語の議論にも臆することなく参加することができた。一方で、開催地がスペインであったことから、現地の学生との議論や買い物等をする際には訛りを強く感じ、意思疎通を難しく感じる場面があった。

学会の内容としてはカルボランやドデカボロネートのようなホウ素クラスター化学に関する議題がおよそ半数を占めていた。これまで触れてきたことのない分野であったため、創薬分野との融合研究など新鮮で興味深い発表が多かった。また、発表論文を読んだ際に疑問点を感じていたトピックの著者と直接話ができる機会が何度もあり、実際の検討における苦労話や今後の展望を含めた話を聞くことができたのは現地での国際学会に参加した一番の収穫だったと感じた。自身のポスター発表ではアルバータ大学(カナダ)のEric Rivard教授やリヨン大学(フランス)のEmmanuel Lacôte先生を始め、海外の先生方、学生たちと熱い議論を交わすことができた。昨年から力を入れていた英語でのディスカッションを満足に楽しむことができ、努力の成果を感じられた。

自由時間と学会中のエクスカージョンではカタルーニャ地方を散策する機会を得ることができた。ピカソやガウディのような偉大な芸術家を輩出した街並みを自分の足で歩き、民族文化や歴史を感じる時間は至福であった。

このような貴重な経験はトランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラムの支援無しでは実現できないものであり、深く感謝を申し上げます。



(写真左;ポスター発表, 右;学会の晩餐会)